東大阪　令和6年9月15日(日)

大声でつぶやく　35

けったいな町医者

作家・医学博士　長尾和宏

園まりさん亡くなる

がん再発後も10年以上活躍する人がいます。歌手の園まりさんもそのひとりです。

最期まで強かった三人娘の絆。

昭和のアイドル三人娘といえば、僕らの世代は花の中三トリオといわれた山口百恵さん、森昌子さん、桜田淳子さんでした。

しかし僕より少し先輩方は、伊東ゆかりさん、中尾ミエさん、そして園まりさん、と言うでしょう。

その三人娘のおひとり、「逢いたくて逢いたくて」「夢は夜ひらく」など、独特の唄い方で人気を得た歌手の園まりさんが7月26日に都内の病院で亡くなりました。享年80。死因は急性心不全との発表です。

園さんは長年にわたり乳がんを闘病されていました。中尾ミエさんが先日テレビにご出演された際、「私たちは前から知ってて。乳がんだったからね。最後はもう緩和ケアに入って。自分で最後を分かってたんで。だから、お見舞いに行ったりなんかしても穏やかで。悔いのない人生だったと思う」というお話をされていたので、死因は急性心不全ですが、突然死というわけではなさそうです。

園さんが乳がんと診断されたのは2007年のこと。

その1年ほど前から顔の火照りや体温の変動などによる更年期症状に悩まされ婦人科に相談。女性ホルモン補充療法（HRT）を勧められ検査を受けたところ乳がんが発覚したといいます。

更年期症状に苦しむ女性の中には、ホルモン補充療法を受けるか否か悩んでいる人も多いようです。

この治療によって、乳がんや子宮がんのリスクが上がるという噂を聞いて、躊躇（ちゅうちょ）しているのだという人が大半です。

確かにわずかながらがんのリスクが高まるというデータが出ています。そのためホルモン補充療法を受ける人は定期的に乳がん検査や子宮の検査をしなければなりません。

逆にいえば、この治療を受けている人は早期発見ができる状況が作れるということ。園さんもホルモン補充療法がきっかけで乳がんの早期発見ができたといえるでしょう。

翌年には手術を受けて、回復されました。

園さんは、乳がんと診断された時点では、しこりも見当たらず、がんの症状は何も感じていなかったといいます。

このように、別の治療を受ける際の検査でがんがわかったなら、早期発見でラッキーだと考えたほうがいいでしょう。

一度は回復した園さんでしたが、手術から11年後の2019年に再発。乳がんのタイプによって、10年後以降に再発する人も少なくありません。

しかし再発後も10年以上がんと共存し、元気にされている人もたくさんいます。

生涯独身を通された園まりさん。

三人娘の絆は強く最期まで中尾さんと伊東さんが見守っていたようです。

弱ったときに傍にいてくれる人こそが本当の友達。真の友情は老いてからわかるものです。

一日一日秋が近づいている気がします。

体調管理に気をつけてください。

長尾和宏オフィシャルサイト